

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 10 月 15 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170700476		
法人名	社会福祉法人和光会		
事業所名	グループホーム「ファミリーケア北方」		
所在地	岐阜県本巣郡北方町柱本3丁目8番地 (電話) 058-324-0324		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年10月5日	評価確定日	平成19年11月13日

【情報提供票より】 (平成 19 年 9 月 21 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	18 人 常勤 12 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 16.4 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	11,900 円	その他の経費(月額)	18,000~ 円	
敷 金	有(100,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 9 月 21 日 現在)

利用者人数	27 名	男性	7 名	女性	20 名
要介護1	4 名	要介護2	9 名		
要介護3	12 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.4 歳	最低	59 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山田病院・寺田診療所・山田メディカルクリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは病院を母体とし、医療と介護の連携を図り利用者が「地域と共にある暮らし」を目指すホームである。「ホームでの看取り」に取り組み、法人の関係機関と連携し、利用者や家族の思いを支援している。職員は利用者の力に応じた家事や趣味の継続、地域住民との交流を心がけている。又、利用者が地域の人々と同じように楽しんだり、係わりあえる生活であるよう色々工夫している。運営推進会議を通し、自治会長、老人会長、民生委員等と交流できたことで地域の子ども達や高齢者の情報を得、子どもや高齢者がホームを活用し共に過ごせる支援を検討している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画は利用者や家族の意向を確認したり見直しはあるが、同じ内容がみられる。身体能力の変化や予測されるリスクへの予防に向けた支援計画等新たな視点が入ってくると良い。金銭は、きちんと管理・報告されているが、毎月を区切りとし、預かり金の使用の有無に係わらず報告されたい。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニットのミーティングで話し合い、1年間のサービスの提供を振り返る機会とした。自己評価をする中で、利用者をこれまで「ゲスト」と呼んでいたが、「家族」と呼ぶことに改め、ホーム理念に「家庭的な環境」の文言を取り入れた。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議に地域の役員や行政に参加してもらい、地域の子ども達や高齢者の様子が把握でき、「子ども110番」を受けた。地域の人と共にある暮らしを目指すホームは、今後子どもの見守りと利用者との交流、地域高齢者支援の場の提供等、更なるホームの役割を見出し、どのように関わっていけるかを検討している。</p>
重点項目 ②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が気兼ねなく意見を述べられるよう日常の訪問時や、運営推進会議、家族会、イベント等多くの機会ごとに丁寧な声かけや話し合いに心がけている。又、ホームの中での暮らしぶりを理解してもらえよう映写会も開催する。意見箱や苦情窓口も家族等に知らせている。</p>
重点項目 ③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人職員も協力し、地域の清掃活動や盆踊りに参加、地域の人との交流を深めてきた。運営推進会議を通し、老人会がホームを訪れ、新しい人々との係わりも生まれている。地域の子ども達や高齢者がホームを訪れ、利用者から竹とんぼやお手玉遊びを教してもらったりと楽しんでる。留守宅児童の見守りを検討している。</p>
重点項目 ④	

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域と共にある暮らしを作っていく」を念頭に置いた理念を作っているが、今回の自己評価を機に、これまで「ゲスト」と呼んでいた利用者を「家族」と呼ぶことにし、理念にも「家庭的な環境」の文言を加えた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の健康管理や家族との交流を大切にしながら地域での生活環境を整える取り組みに、地域の役員や関係機関と相談や提案をし利用者のそれまでの暮らしぶりの継続が図れる環境作りの具体的実践に向け努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設時より地域の清掃活動や盆踊りに法人全体として参加し、地域の人と顔馴染みになれた。自治会、民生委員、老人会、子ども会等多くの関係者との交流を通し親交を深めてきている。利用者も地域清掃活動に参加したり、幼稚園や学校の運動会に招かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の改善課題は、各ユニット会議において具体的な話し合いを重ね改善している。今回の自己評価を通し利用者へのケアや支援のあり方を再確認し、利用者が安心して暮らせるよう話し合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度テーマをホームで決め、運営推進会議を開催している。ホームの近況や活動を報告し、参加者(家族代表、自治会、民生委員、役場、広域連合、人権擁護委員、日赤奉仕団)から提案や助言を受け、職員会議で報告・周知し、課題に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議に自治会長や老人会長、民生委員が参加することで地域の情報が得られ、北方の子どもや高齢者の様子が分かった。参加者から相談があり、行政との話し合いから「子ども110番」を受け、内容が充実するよう相談や連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	各ユニット別に、毎月ホーム内での利用者の暮らしや行事の様子を便りにまとめ郵送している。又、家族の会やイベント時にホームの1年間の暮らしを映像に収め見せたり、家族の訪問の間隔が長くなる場合は、電話で報告している。	○	更には、毎月の便りに合わせ、現在の利用者の身体の状態や催しでの様子を個別・具体的に記入したもの、献立等を家族に届ける取り組みも期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等の窓口は、重要事項説明書に明記し、玄関先に受付箱を設置しているが、運営推進会議の場や色々な機会を活かし、家族等の意見を出しやすいように、日ごろより職員に話かけしやすい環境づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設から4年が経過し、主任職員の異動を行った。新旧の職員で一定期間共にケアにあたった。又、1カ月前から家族に参加を求め、異動職員の挨拶、家族への紹介を兼ねた家族会を開催した。参加できない家族には、職員の異動を顔写真入りの便りで紹介される。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で職員の個別研修計画を立て、法人の方針を始め、ケア、リスク、接遇、医療等が計画され、受講も確認している。外部研修についても目的を持った積極的な受講を勧め、報告書の提出や報告を求め、他の職員への周知を図っている。職員の研修相談にも応じている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他のホームとの交流、施設外での研修や訪問で意見交換を行うよう積極的に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談があると、了解を得て自宅や入院先を訪問し、家族と共に顔馴染みの関係が作られるように支援している。ホームへの訪問、日中ホームで過ごしたり、食事を一緒にとったり、空部屋があれば泊まることも可能であり、徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜の切り方や味付けを習ったり、踊りや絵等利用者の得意分野を引き出し、教えてもらうことが多い。「子ども110番」を引き受けたことで地域の子供たちとの交流会を持ち「竹とんぼ作り」を行い、利用者の特技が伝えられた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の本人意向の把握に加え、センター方式を活用することで、生活への思いや習慣を知り、支援やケアに活かせるよう観察や見守り、記録に努めている。	○	観察や把握できたのがいつなのか、どのような場面であったのか、記録に残すと更に良い。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のユニット会議で、個々の利用者の状態を報告、意見を交換し、チームとして把握している。本人、家族の意向を尊重し、骨折した利用者の場合も法人診療所の医師や看護師、理学療法士等にホームへ来てもらい、職員間で方針を共有し、チームとして介護計画を立て実践した。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに評価・見直しを行い、課題も分析しているが、内容の見直しにまでには至っていない。	○	日々の生活の中で、心身の状況が変化することでリスクが予測されないか、現在のケア手順に付け加える注意事項がないか等の先を見つめた計画への見直し等も期待される。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の看護師がホームを毎日訪問し、配薬管理や様子観察を行っている。リハビリが必要な方には理学療法士、飲み込みが悪くなった方に言語聴覚士が訓練をするなど利用者の状況に合わせた支援を提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人の医師がかかりつけ医の場合は、通院支援を行っている。それ以外の病院への受診には家族に同行してもらうことを入居時に説明しているが、場合によっては、職員の支援に加え、法人内看護師の協力もあり、家族の安心を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りの指針」が作成され、入居時と重度化した場合、同居家族や関係者に説明して意向を確認し、同意を得ている。終末期になり、家族の要望を受け止め、医師と相談し、看取りの変更を柔軟に対応した実績もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	親しみのこもった話かけで、一人ひとりに向き合った対応で接している。職員は、機会あるごとに尊厳のあるケアについて話し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	センター方式を活用して 入居前の暮らしの様子をできるだけ聞いて、絵を描いたり、夕方の散歩、買い物、接客、茶道の先生の経験、調理や料理など得意を活かせる場面作りを工夫し、好きなことを率先して行ってもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好調査し、献立は利用者の希望を取り入れ、各ユニットでそれぞれ作っている。食堂のテーブルで包丁を使った下ごしらえや、もやしの根取り、男性利用者が揚げ物をし、食器洗いを職員と共にする利用者の姿がある。	○	包丁やはさみを使うことの支援には、職員の見守りが欠かせない。将来のリスクについても日常のケアの取り決めに細かく確認する検討も期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回を基本としており、入浴の順番は利用者の意向が反映されたものになっている。拒否のある場合は、午前、午後の予定の時間にこだわらず、その日一日をかけ、本人の気分が良い時を待って、声かけし直す等の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の会話から、何が好きか、何ができるかを理解し、役割や楽しみの支援を行っており、畑の草むしりや新聞の取り入れ、訪問者の接客、カラオケ等色々場面を作り、見守りや支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物、喫茶店、散歩と日常のことから、近くの温泉に出かける、地域の子も達との交流や花見等、戸外に出る機会を作っている。気が進まない時は次回の参加を促す等、利用者の好みにあった外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一般家庭と同じように危険な場所は施錠している。ボランティアや地域の方の訪問が多く、玄関は開放している。建物周辺にある外門は施錠があるが、開放的な門構えで内外から共によく見え圧迫感がない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間2回、消防署員の立会いで、消火器を実際に使う訓練や、利用者も参加し中庭にある畑に誘導する訓練を行った。外の職員が緊急時何分でホームに集合できるかの測定も行った。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を5色に分けバランスを管理する健康法を活用し、法人の栄養士に献立表を見せ、相談もしている。食事や水分の摂取量は個々に把握し、記録に残している。又、必要に応じ看護師や医師と相談し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは天井が高く、空間も広い、大きな窓ガラスで採光もよい。階段は段差が適切で幅広く、手すりを使い階段で移動する利用者も多い。リビングや和室、ベランダにあるソファや椅子には、利用者の気に入った座り位置がある。季節で掛け換える絵画や置物、大きな手作りの月間予定表が飾られている。自然に囲まれ緑が多く、自然換気もよい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に使い慣れたものを持って来てもらえるよう話し、仏壇や小引き出し、1人用椅子、テレビ等を持ち込まれ、その人らしい居室を作っている。生花の鉢植えが好きな利用者だが、管理が難しくなり、造花の鉢植えに代え、居室の雰囲気継続に工夫している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。